



国際ロータリー第 2550 地区  
益子ロータリークラブ  
承認No.1 3 8 5 6



# 益子ロータリー会報

No. 2 2 0 1 例会   
2026. 2. 18(水) Vol. 29

**Rotary** 

**RI 会長メッセージ**  
「よいことのために  
手を取り合おう」

月間テーマ《平和構築と紛争予防月間》  
2025～26 年度 高根澤良一会長テーマ  
『友情と奉仕・親睦』

RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ  
第 2550 地区ガバナー 二十二 修

## 司会

佐藤 浩 SAA

## ロータリーソング

♪四つのテスト♪

## ビジター紹介

高根澤良一会長

横堀 聡様 (益子陶芸美術館元学芸員)

## 会長あいさつ

高根澤良一会長

梅の開花が始まりました。春の訪れですね。  
先日 2 月 12 日、霞ヶ浦国際 CC (つくば学園) にてゴルフをしましたが、梅が満開でした。楽しいゴルフでした。また、2 月 11 日～3 月 22 日まで、水戸偕楽園の梅祭りが始まっております。

さて、2 月 22 日 (日)、第 4 グループの I・M です。全員参加のミーティングです。特に新しい会員のみなさまには、ロータリークラブを知り、勉強するチャンスですので、是非参加をよろしくお願い致します。

## 幹事報告

小幡正之幹事

- 1、理事会議事録を本日みなさんの BOX に入れましたので、確認してください。
- 2、22 日(日)の IM ですが、新入会員オリエンテーションは午後 1:00 までに来てください。それ以外の方は、午後 2:30 開会ですので、それまでにお越し下さい。
- 3、2 月 25 日(水)は休会です。
- 4、3 月 4 日(水)は、会長・幹事が留守の為、**理事会は 11 日(水)の市貝の時、昼食後行います。**

## 地区セミナーの予定

小幡正之幹事

- 1、3 月 15 日 (日) ベルヴィ宇都宮 9:00～  
・次年度会長・幹事ラーニングセミナー  
(小幡会長エレクト・高橋幹事エレクト)
- 2、4 月 5 日 (日) ニューイタヤ 9:00～  
・ロータリー・リーダーシップ研究会Ⅲ  
(小幡幹事・高橋副幹事)
- 3、4 月 19 日 (日) ライトキューブ宇都宮  
・**地区協議会**  
(2026～27 年度会長・幹事・5 大委員長)

## ニコニコBOX

三村久美子委員長

高根澤君 春らしくなってきました。梅の花も咲き出しました。横堀様、卓話よろしくお願ひ致します (過分に頂戴しました)

松崎君 横堀様、卓話ありがとうございます。

佐藤広志君 横堀様、卓話有難うございました。

塚本君 横堀さん、卓話ありがとうございます。

三村さん 横堀様、ようこそいらっしやいました。卓話よろしくお願ひ致します。  
(過分に頂戴しました)



会 長 : 高根澤良一  
副 会 長 : 小幡 正之  
幹 事 : 小幡 正之  
会報委員長 : 宮下 潤  
会 報 委 員 : 牟田 紀一

事務局 : 栃木県芳賀郡益子町益子 1593  
TEL・FAX 0285-72-7474  
E-mail: masikorc@gaea.ocn.ne.jp  
例会会場 : 益子町上大羽 2268 益子カントリー倶楽部 2 階  
TEL 0285-72-1234 FAX 0285-72-1231  
例会日 : 水曜日 12:30～13:30

## 卓 話

横堀 聡様

### 「藍染工房～日下田紺屋と濱田庄司」

日下田紺屋の始まりは、1790年～1800年頃、江戸時代に始まったという記録が残されています。日下田正氏は、9代目になります。

私が陶芸美術館の学芸員をやっていた時から、ずっと日下田さんとは交流がありました。美術館で主に益子焼を展示する上で、紺屋の日下田さんを抜きには語れないと思っていました。

民藝運動をはじめ、益子焼を広めた濱田庄司は、益子に「工芸村」を造ろうと考えていました。鉄砲鍛冶・家具職人・竹細工・藍染などを一同に集めようと考えていたことを、正さんの父である日下田博さんから聞いていました。

その1人として、熊代鉄工の鉄職人としてロウソク立てや、日本民藝館エントランスのランプシェードを作った熊代さんです。残念ながらこの構想は実現しませんでした。が、「工芸村」のモデルとなったのが、イギリスのディッチリングという小さな村です。1921年11月に、濱田庄司は交流のあったバーナード・リーチ氏と一緒に訪れました。この村には、「手織りの母」と呼ばれているエセル・メーレの工房がありました。そのエセル・メーレが書いた「草木染」の本は、日下田さんのバイブルとなりました。

この本に出会ったのは、染織家柳悦孝氏（柳宗悦の甥）の内弟子となった初日に、柳家の本棚で見つけたそうです。後に2008年リッチ工房を訪れ、ディッチリングの工芸村を訪れることになるとは思っても見なかったと思います。

現在、ディッチリングの美術館に、エセル・メーレの織物と一緒に日下田正さんのタペストリーが収蔵されています。

ディッチリングのパブ（ホワイトホース）で飲んだビールをもう一度飲みたいと懐かしそうにつぶやいていました。

## 日下田正さんがしてきた仕事

### 1、茶綿の栽培。

鳥取県からタネを譲り受けてもらい栽培。最初は益子の風土に馴染まず苦勞した。他にもグリーンコットンという緑色の綿も栽培していた。

### 2、混じり糸を考案。

糸に紡ぐ前の綿花に草木染をして、いろいろな色を混ぜながら紡ぐ、大変手間のかかる仕事。

### 3、人を育てる。

門下生として教えを受けた人が、3年ほどで交代して約50名位の人が工房から卒業していった。「藍花会」として活動している。

濱田庄司の工芸村構想は、手仕事の人達を集めて村をつくるというだけではなく、それぞれの手仕事をいろんな人に手伝ってもらい、人を育てることなのではないかと今になって思いました。現在、陶芸に携わっている人が減っているというのは、育てるシステムが無いからだと思います。

日下田工房も、正さんが亡くなって育っていく人がいなくなるというのは大変なことで、益子の宝が無くなってしまい、誰か志のある人が本気でやらないと、今迄のようにはならないと思います。

伝統というのは、革新を積み重ねていくことだと思います。例えば、日下田工房の博さんは、**藍染**正さんは、**茶綿を導入し、混じり糸を作り**革新的なことをしてきました。正さんは、次は何を考えていたか、次の事が無いと伝統が途切れてしまうと思います。陶芸も同じ事で、伝統を絶やさない為にはどうしたらいいのか、本気で考えないといけない時だと思っています。

## 出席委員会

小幡正之幹事

出席報告：2月18日(水)例会 ～ 28人中18人出席・・・64.2%